

しやつきー

- 生活支援サービスおたすけ隊～現在までの状況報告～
- 福祉はみんなのしあわせ
～社協の福祉学習 真龍小学校5年生～
- 生活福祉資金【教育支援資金】『事前審査』のお知らせ
- 毎日笑顔で過ごしていただきたい～ユニットフロア～
- 『あっけしの町を良くするしくみ』赤い羽根共同募金
- あっけしの輪～箕島航さん～ ほか



11月7日、フクハラ厚岸店のご協力のもと、赤い羽根の街頭募金を行いました。昨年は、街頭での活動を自粛していましたので、2年ぶりの活動となりました。



生活支援コーディネーターの ウォーキングマップ Vol.21

緊急事態宣言が解除され、少しずつですが、生活支援コーディネーターのライフワークであります地域活動への依頼や参加が増えてきました。

今回は、若松自治会と上尾幌自治会へお邪魔しましたので、その様子を紹介します。

高齢者交流事業 ～若松自治会～

夏に実施した、若松自治会への地域座談会の際に、『生活支援サービスおたすけ隊』の取り組みについて、若松地区の高齢者に知ってもらう機会を作りたいと相談がありました。

先日、やっとお邪魔することができ、生活支援サービスやボランティアポイント制度など、社協が取り組む新しい事業についてスライドを使って説明しました。同自治会宮本会長から「みんな用事を頼むときお礼することを考えると思うんだけど、この仕組みを使うことで、気兼ねなくお願いできると思うし、俺たちも手伝いしやすくなるものだから」と話していました。

若松地区は、これからもおたすけ隊などを利

用しながら、人と人の繋がりを切らない取り組みを続けて行きます。



真剣に話に耳を傾ける聞く参加者の皆さん

レクリエーションで交流 ～上尾幌自治会～



参加者も役員も全員で白熱したゲームが繰り広げられました

久しぶりに交流事業をやるから、レクリエーションをやってもらえないかと話があり、二つ返事で集会所へ向かったのは10月中旬のこと。

コロナ前は、季節の変わり目毎にお邪魔していた上尾幌地区ですが、集会所に降り立ち「久しぶりだなあ」としみじみ思い、コロナ禍で地域活動を行えていないことを再認識しました。

会場でレクリエーションの準備していると、

「一人また一人と試させて？」と練習が始まり、ゲームがスタートする頃には皆さん上達していました。参加者からは、「こんなに声を出して笑ったのは久しぶり」「みんなで集まるのはやっぱり楽しい」と言う声が聞かれました。

コーディネーターは、皆さんの笑顔に元気をもらい上尾幌を後にしました。

■地域の困りごと相談や、新規事業の説明会実施などお気軽に連絡ください■

厚岸町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 柏木 ☎0153-52-7752

生活支援サービスおたすけ隊

～現在までの状況報告～

これは、高齢者や障害をお持ちの方々が、住み慣れた地域で安心安全に暮らし続けられるよう、生活する上でのちょっとした困りごとを、地域の住民同士が“お互いさま精神”で助けあう会員制の有償サービスです。

今年の夏から、お試し期間としてオープンし、現在まで3件の稼働がありました。そのうち1件は定期で利用が継続しています。今日は、稼働している3件を写真でお知らせします。



◇台所の茶ダンスを外に運び出してほしい！
協力会員2名で対応し、20分程度で終了。



◇松の剪定をしてほしい！
協力会員1名が対応し、1時間半で終了。



◇遠方に住む家族より依頼。母の話し相手になってほしい！
◇協力会員2名体制で毎週実施中。

利用には、次の会員への登録が必要です。

◇利用会員（支援をお願いする）

◇協力会員（支援を行う）

詳細については、厚岸町社会福祉協議会まで、気軽に連絡ください。

【問い合わせ先】

厚岸町社会福祉協議会 総務地域課

☎52-7752



福祉はみんなのしあわせ

～社協の福祉学習 真龍小学校5年生～

厚岸町社会福祉協議会では、福祉の学習を通して幼いころから高齢者や障害者の暮らしや福祉課題を学ぶ機会を増やすことで、福祉への理解を深めてもらおうと福祉学習の支援を行っています。この度、真龍小学校5年生に福祉学習を行いましたのでお知らせします。

11月2日、「ふくしてなんだろう？」というスライドを利用し、福祉について説明しました。

「福祉」の漢字の成り立ちから「ふくし」の意味を考慮してもらったり、厚岸町にある福祉の仕事を紹介しながら、

福祉とは、高齢者や障害を持っている方だけではなく、“みんなが幸せになること”なんだと伝えました。多くの子ども達は、高齢者や障害者のための福祉であると捉えていた様で、福祉を考えるきっかけになれば嬉しいです。



11月12日、車いす体験学習を行いました。

今回は、特別養護老人ホーム心と園より職員2名が講師として参加し、施設の生の声を子ども達に伝えました。

体育館に自走コースと介助コースの二つを設置し、自走コースでは、自分自身で車いすを漕ぎ、操作方法や普段との視界の違いを体験しました。介助コースでは、車いすを押すスピードや声掛けの仕方、また、介助者を乗せ段差を超える操作方法を体験しました。

介助する側とされる側では、どんな違いがあるのか、実際に手伝う場面に遭遇したときどうしたらよいか、皆さん講師の話にしっかり耳を傾けていました。



車いすで段差を超えるのは、考えていたより重く、力加減が難しいことが分かりました。

平常時からできる 災害ボランティアセンターの取組み

厚岸町社会福祉協議会では、地震などの災害時に道内外から駆けつけるボランティアの受け入れ体制づくりのため、平常時からさまざまな取組みを進めており、今回はその一部を紹介します。



災害ボランティアセンターとは

災害ボランティアセンター（災害ボラセン）とは何かをひとことで言うと、災害ボランティアの活動を円滑に進めるために被災地に設置される拠点のことです。日本で災害ボランティアが活躍するきっかけは1995年の阪神・淡路大震災でした。阪神・淡路大震災では日本全国からボランティアが被災地に駆けつけ「ボランティア元年」とも言われています。

過去の事例を教訓にボランティアが、ただ被災地に駆けつけただけではうまく統制をとることができず、ボランティアの人たちが円滑かつ効率的に活動を行えるように調整する機関として災害ボラセンが誕生するに至りました。

災害ボラセンは、被災した地域の社会福祉協議会やボランティア活動に関わっている関係団体などと一緒に業務を行うことが一般的で、そこに災害ボラセン



運営の知識を有している団体が加わる場合もあります。

災害時にのみ臨時的に設立することもありますし、平常時から防災訓練や防災の啓蒙活動などを行っている場合もあります。

設置・運営マニュアルと運営マニュアルの協定

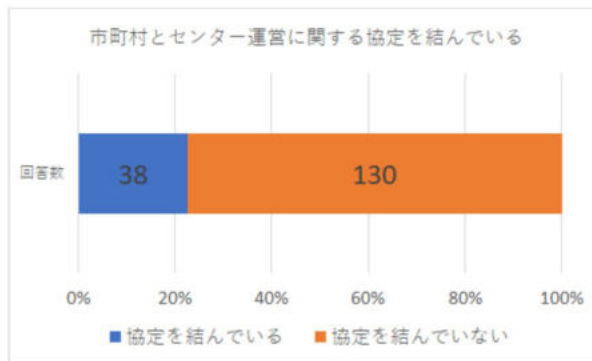
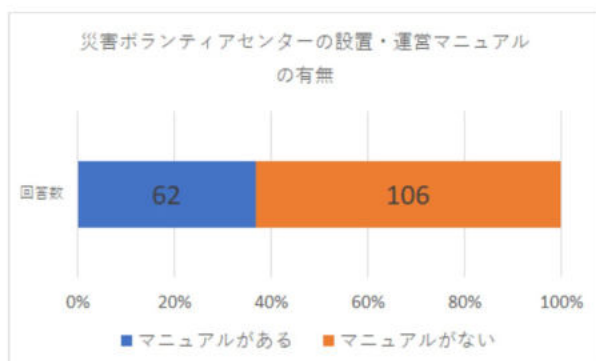
過去の災害経験から災害発生時に「災害ボランティアセンターの設置・運営マニュアル」があることで、災害時のボランティア活動をスムーズかつ効果的に行うことができると言われています。また、災害ボラセンの職員と応援スタッフの人件費や旅費を補助する制度利用のため、平常時から市町村とセンター運営に関する協定を結んでいるの

も望ましいです。

下のグラフは、道社協が今年4、5月に実施した災害ボランティアに関するアンケートで、回答した168の社協のうち、災害ボランティアセンターの設置・運営マニュアルがあるのは4割弱の62社協。市町村とセンター運営に関する協定を結んでいるのは38社協だけです。

平常時から組織する 災害ボランティア推進連絡会

厚岸町社会福祉協議会では、災害時に社協が中心になって災害ボラを設置運営することを前提に、平常時から災害ボラセンの普及啓発や関係団体の連携協力の促進を図るため町内関係者で災害ボランティア推進連絡会を組織しています。去る11月8日開催の同連絡会では平成25年に策定した厚岸町社協の「災害ボラセン設置・運営マニュアル」の初めての見直しや、今後の厚岸町との協定締結準備について話し合いを進めました。



高齢者の交通事故をなくそう

「交通安全のつどい」を行いました



厚岸町老人クラブ連合会では、会員一人ひとりが常に交通事故防止を意識し、交通事故のない安心と安全の町づくりを目的に「交通安全のつどい」を毎年開催しており、今年は、10月1日に開催し19名が参加しました。

はじめに、真田副会長が交通事故撲滅を宣言し、会員より集めた署名簿820名分を佐々木厚岸警察署長に手渡しました。

その後、運転免許証更新の高齢者講習の様子や運転免許証返納のビデオを視聴し、青山地域・交通課長は、交通死亡事故の主な特徴と発生原因、事故が発生しやすい時間帯、事故を起こさない・被害に遭わないための対策を話されました。

参加者は、普段から自身の運転で前方不注意や走行速度に注意し、『かもしれない運転』を意識することを誓いました。



高齢者が運転する交通事故の特徴について説明を受ける参加者

梅香発信

No8

『社協居宅介護支援事業所』介護や福祉の小話

【早口言葉】

早口言葉を繰り返し言うだけで、口腔機能がアップすることをご存知でしょうか？早口言葉は、舌の運動により唾液の分泌が促進し、口唇や口の周りを鍛えることができ、さらに、嚥下機能(食べ物を飲み込む動作がしやすくなる)も高める効果があります。

また、早口言葉を大きい声で元気よく言うことで、脳も活性化し、背筋を伸ばして言うことで肺機能もより使うことができ、声が出しやすくなり、呼吸もしやすくなる効果もあります。

- 生麦生米生卵(なまむぎなまごめなまたまご)
- 隣の客はよく柿食う客だ(となりのきゃくはよくかきくうきゃくだ)
- 赤巻紙青巻紙黄巻紙(あかまきがみあおまきがみきまきがみ)
- かえるぴよこぴよこ三ぴよこぴよこ あわせてぴよこぴよこ六ぴよこぴよこ
(かえるぴよこぴよこみぴよこぴよこあわせてぴよこぴよこむぴよこぴよこ)



いかかでしたか？

簡単に楽しくできる口腔機能トレーニングですので、ぜひやってみてくださいね。

生活福祉資金【教育支援資金】『事前審査』のお知らせ

北海道社会福祉協議会では、学校教育法に定める学校（高校、高専、短大、大学、専修学校）の入学及び修学に必要な経費などを無利子で貸付しております。

資金の貸付決定まで1ヶ月程度かかり、合格

発表後の申請では指定の納期に間に合わない場合があります。合格の可否に関わらず事前に相談や審査をお勧めします。まずは気軽に厚岸町社会福祉協議会まで（☎52-7752）ご相談ください。

【就学支度費】

- 貸付限度額 50万円
- 据置期間 6ヶ月以内
- 償還期間 20年以内
※貸付額に応じて変動あり
- 申込期間 推薦入学合格時期から入学月の上旬まで
- 貸付対象 学校に納入する経費、学校指定の制服・靴・体育着、入学時に必要な教科書費用
- 必要書類 合格通知書、学校作成の教科書・制服購入に関する書類、生計者の源泉徴収票

【教育支援費】

- 貸付限度額（月額換算）
 - 高 校 月35,000円
 - 高等専門学校 月60,000円
 - 短期大学 月60,000円
 - 大 学 月65,000円
- 据置期間 6ヶ月以内
- 償還期間 20年以内
※貸付額に応じて変動あり
- 申込期間 新入学生は合格決定時期、中途入学及び在学中の方は随時受付
- 貸付対象 授業料、学校納入経費など
- 必要書類 合格通知書、経費内訳書類

こんにちは！社協ヘルパーステーションです

第9回

ヘルパー日誌

こんにちは、社協ヘルパーステーションです。これから、クリスマスやお正月をに美味しい物を食べる機会もふえますが、今回は一足先に「春の七草」のお話です。

「春の七草」

お正月を過ぎてから1週間ほど経った頃に食べると良いとされている春の七草。最近では、時期になると七草粥の材料として色々な形態の七草セットがスーパーでも売られており、七つの草の名前は「せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ」です。

七草の由来は、元々日本には雪の間から顔を出した植物を食べる「若菜摘」という習慣があったことや、中国から伝わった7種類の野菜のお粥を食べる習慣が定着したとされています。

また、七草粥を食べることにより、お正月の御馳走で疲れた胃腸を整え、不足しがちなビタミン類を補い、一年の無病息災を願う目的も含まれます。

作り方は、簡単。通常のお粥を作る要領で、塩もみした七草を入れるだけでOKです！それだけだと、味付けが薄く食べづらいという方は、鶏肉やちりめんじゃこなどの具材をプラスしてみるのもいいですよ。



お正月だけではなく、疲れたときにも食べたいですね。

厚岸町立特別養護老人ホーム心和園だより

毎日笑顔で過ごしていただきたい ～ユニットフロア～

ユニットフロアとは、入居者や介護スタッフと共同生活をしながら、1人1人の個性や生活リズムに合った生活が送れるよう、全室個室の施設のことをいいます。心和園には、南北2つのフロアに18名が入居しています。



和やかな雰囲気で行う歩行運動。

日中の過ごし方は、自宅の生活と同じ様に、リビングでテレビや新聞を見る方、部屋でゆっくり編み物などをする方、職員のウエス作りを手伝ってくれる方など様々です。



交流スペースでは、入居者とスタッフで体操をして過ごすことも。

現在は、新型コロナウイルス感染対策のため、外出や買い物へ気軽に出かける機会が少なく、普段は部屋で行っていた大切な家族との面会も、叶わない状況が続いています。

そんな中、密にならないよう配慮しながら、職員が作ったてづくりおやつを提供したり、体操、歩行運動などを行っています。

入居者の皆さんにこれからも笑顔で毎日を過ごして頂けるよう、職員一同今後も取り組んでいきます。

肘掛けが付いたイスなどを 新調しました

令和3年9月、肘掛け付のイス10脚とテーブル10台を導入しました。

これは、施設生活を快適に過ごせるよう、老朽化したテーブル等の入れ替えを厚岸町に依頼し実現したものです。入居者の皆さんが、長く時間を過ごすホールに設置しました。



新しいので気持ちがいいし、肘掛けが付いているので楽に座り続けられます。

在宅老人デイサービスセンター便り

むかし懐かし「いもだんご」

コロナが落ち着きを見せた10月の第3週、デイサービスのおやつとして“手作りいもだんご”を提供しました。

コロナの影響もあり、久しぶりに手作りおやつの提供となり、利用者の皆さんは、「うまいわ」「久しぶりに食べた」「昔はよく作ったもんだ」と、いもだんごの味を楽しみながら昔を懐かしむように話していました。

このじゃがいもは、釧路太田農業協同組合から寄贈頂いたものです。利用者の皆さんも大変喜んでいます。ありがとうございます。



いもだんごおいしいね。カメラに向かっていただきます。

どちらにしようか悩ましい

～デイサービスの選択食～

10月19日、20日の2日間、デイサービスでは、年に一度の選べる昼食の日として「天ぷら定食」と「刺身定食」を提供しました。

利用者にはあらかじめ食べたい定食を選んでいただき、皆さん、好みの定食を食べて「おいしいね」「また、食べたいね」と話していました。

(天ぷら定食)

炊き込みご飯・味噌汁・天ぷら盛り合わせ
(海老・しそ・南瓜・茄子)・煮物・果物



(刺身定食)

炊き込みご飯・味噌汁・刺身盛り合わせ
(海老・まぐろ・サーモン)・煮物・果物



『あつけしの町を良くするしくみ』

赤い羽根共同募金

運動期間10月1日～12月31日まで



▶ 12月から『歳末たすけあい運動』が始まります

今年度の目標額は **210,000円**

歳末たすけあい運動は、毎年12月に「共同募金運動」の一環として、なんらかの支援を必要としている人々が地域で安心してあたたかいお正月を迎えることができるように行われる募金運動です。

この運動は、戦後の混乱期に、市民のたすけあいの精神により、生活に困窮する人々に対する物資の持ち寄り運動として始まりました。

その後、時代や福祉課題の変化に応じながら、地域での安心・安全な暮らしを支えるための貴重な募金として様々な取組みに活用されています。

◆厚岸町での取組み

昨年は、重度障害を持ちながら在宅で暮らす41名の方々へ、見舞金として5,000円をお届けしました。

◆募金方法

12月28日までに社会福祉センター窓口へお持ちください。

◆税制上の優遇措置

- ・個人の場合～2,000円を超える募金は所得税及び住民税にかかる寄付金控除の対象です。
- ・法人の場合～一般の寄付金とは別枠で損金算入することができます。



みなさんの募金のおかげです

工房るうぷに"ドウコンディショナー"の購入助成をしました



共同募金会では『施設活動支援事業』として機器購入の助成も行っています。

ドウコンディショナー（製パン機器）は、解凍と発酵の機能を備えており、細かな設定もできるため作業効率が大幅に上がり、焼けるパンの種類も増えました。現在は、約40種類のパンが店頭に並び、12月の新作パンの発売に向けても、この機器が日々活躍しています。

みなさんから寄せられた募金が、厚岸の福祉活動を支えています。

赤い羽根チャリティーパークゴルフ大会の結果



9月26日、「赤い羽根チャリティーパークゴルフ大会」が、男女30名の参加で開催されました。晴天にも恵まれ、47,329円の募金をいただきました。

また、厚岸漁業協同組合と釧路太田農業協同組合より優勝景品を寄贈していただき、みなさん嬉しそうに景品を受け取っていました。

大会結果 (敬称略)

	【男性の部】	【女性の部】
優勝	佐田 義夫	岩谷 博子
準優勝	高畠 一彰	長谷川美千子
3位	山崎 広	大崎 輝子
4位	竹中 喜之	加賀谷恵美子
5位	竹内 孝一	竹中 久美子

街頭募金の取り組み

10月7日と11月7日にフクハラ厚岸店で街頭募金を実施しました。

みなさんから寄せられた募金はこの2日間で35,450円になりました。

足を止めてご協力いただき、ありがとうございました。



フォトスポット



社会福祉センター内にフォトスポットを12月末まで設置しています。

ぜひ、お子様連れで撮影に来てください。



永年勤続奉仕者表彰



このたび、北海道共同募金会会長表彰として次の方が表彰されました。

【永年勤続奉仕者表彰】

加賀 浩一さん



10年以上にわたり当会理事及び副会長として街頭募金やイベント等に率先して参加し貢献されていました。

ホームページが生まれ変わりました

いつも厚岸町社会福祉協議会のウェブサイトをご訪問いただきありがとうございます。このたび、全面リニューアルいたしましたのでお知らせします。

今後も、より見やすく、より使いやすいウェブサイトとなるよう、運営を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



第5回 あっけしの輪

【Wa-akkeshi】

こんな時代だからこそ
人と人とのつながりを大切にしたい。

社協とのつながりに関係なく、町民の皆さんをリレー方式で紹介します。
今日この一歩が、未来の大きな一歩となりますように。

【あなたにとって社協とは】

今まで関わっていないので分からなかったけど福祉の機関かな？あと、イベントとかもやってましたよね。娘のダンスを見に来たことがあります。

【これから頑張りたい事】

仕事かなあ。今、任されている現場をしっかりとっていききたい。

【人生で一番感謝している人は？】

親かな。
小さなころは、身体が弱く入退院を繰り返していた。1年に2～3回入院することもあって、本当、苦勞掛けたなと思う。今があるのは両親のおかげです。



簗島航さん (33)

【コロナ禍で思う事】

普通の日常がどれだけよかったかと思い知らされました。
マスクなしでは生活できないけれど、仕事はしにくいですね。

★次回は、川尻龍之介 さん。
簗島さんから川尻さんへ
「集まって飲もう！！」

厚岸町社協広報『しゃっきー』
2021.12/No.184【編集】広報委員会(以下、委員)
米内山紘輝、中野絹恵、杉本裕樹、柏木由起子、
太田麻利子、伊藤由弥子、加藤嘉史、本庄祐長

社会福祉法人厚岸町社会福祉協議会
〒088-1115 厚岸郡厚岸町梅香2丁目1番地
厚岸町社会福祉センター内
TEL 0153-52-7752 FAX 0153-52-6044